

平成20年10月14日

会社名 松尾電機株式会社
 代表者名 代表取締役社長執行役員 清水 巧
 (コード番号: 6969 大証第2部)
 問合せ先 執行役員総務・経理部門長 竹野井 薫
 (TEL: (06) 6332-0871)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月21日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	一株当たりの 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	4,425	90	100	80	3.10
今回修正予想 (B)	4,304	△ 70	△ 50	△ 80	△ 3.10
増減額 (B-A)	△ 121	△ 160	△ 150	△ 160	—
増減率 (%)	△ 2.7	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月第2四半期)	4,112	△ 357	△ 347	△ 394	△ 15.20

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たりの 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	9,000	200	220	180	6.97
今回修正予想 (B)	8,700	50	60	20	0.77
増減額 (B-A)	△ 300	△ 150	△ 160	△ 160	—
増減率 (%)	△ 3.3	△ 75.0	△ 72.7	△ 88.8	—
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	8,455	△ 456	△ 466	△ 1,725	△ 66.68

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	一株当たりの 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	4,400	20	30	26	1.00
今回修正予想 (B)	4,284	△ 130	△ 120	△ 120	△ 4.65
増減額 (B-A)	△ 116	△ 150	△ 150	△ 146	—
増減率 (%)	△ 2.6	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月第2四半期)	4,083	△ 372	△ 359	△ 347	△ 15.71

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たりの 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	8,950	90	110	100	3.87
今回修正予想 (B)	8,650	△ 70	△ 60	△ 60	△ 2.32
増減額 (B-A)	△ 300	△ 160	△ 170	△ 160	—
増減率 (%)	△ 3.3	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	8,412	△ 546	△ 545	△ 1,867	△ 72.18

連結業績予想修正の理由

第2四半期連結累計期間

当社グループは、タンタルコンデンサ、回路保護部品の製造・販売を主たる事業としており、当第2四半期連結累計期間売上高に占める割合は、前者が約75%、後者が約19%です。

主力のタンタルコンデンサについては、第1四半期に於いて堅調に推移していた車載向け品が、第2四半期期央から当社納入メーカーの北米向け輸出減少に伴い、売上金額が減少しました。また、その他の分野に於いても国内外セットメーカーの生産調整、特に第2四半期に入って携帯機器向け品を中心とした市況悪化の影響、メーカー各社の販売価格引下げ要求のため、タンタルコンデンサの売上高は計画値を下回りました。回路保護部品については、5面電極マイクロヒューズを中心に売上が好調に推移し、計画値を上回る売上高を達成しましたが、タンタルコンデンサの不振をカバーするには至りませんでした。

費用面につきましては、懸案の下面電極構造チップタンタルコンデンサの歩留り改善計画が、第1四半期末まで遅延したこと等により製造費用が計画値を超過したことに加え、当連結会計年度から「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用開始により、たな卸資産の収益性低下による簿価切下げ額、約4千万円を売上原価に算入することとなったため、誠に遺憾ながら第2四半期連結累計期間営業損益は赤字化する見込みです。以上の状況を踏まえ、上記の如く業績予想の修正を行います。

通期

タンタルコンデンサについては、車載向け品については第3四半期以降も第2四半期期央の水準で推移するものと見込んでおり、また携帯機器を中心とした市況についても、変動はあるものの若干の減少傾向は避けられないものと見込んでいます。回路保護部品については、メモリーカード向けの5面電極マイクロヒューズを中心に、サーミアブソーバも加わり第3四半期以降も引続き好調に推移するものと見込んでいます。

しかし、費用面につきましては、第3四半期からタンタルコンデンサの主材料であるタンタルパウダー、タンタルワイヤーの値上げが確定しており、製造費用の増加が懸念されます。これに対して、歩留り改善による材料消費量の削減、不採算品種の生産中止、経費削減、一部販売価格への転嫁等の対策を講じ、製造コストアップの吸収に努める所存です。

以上、タンタルコンデンサについては、厳しい状況が続くと見込まれますが、収益性に優る回路保護部品の拡販に注力し、通期連結営業損益の黒字化を目指すべく努力いたします。以上の状況を踏まえ、上記の如く業績予想の修正を行います。

個別業績予想修正の理由

個別業績予想修正の理由は、連結業績予想修正の理由と同様の内容です。

(注)

①上記業績予想につきましては、現時点で入手利用可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、様々な不確定要因が内在しています。今後当社グループを取り巻く市場の経済情勢等により実際の業績は、上記記載の業績予想数値と異なる可能性があります。

②平成21年3月期第2四半期決算短信は、平成20年11月13日に公表を予定しています。